

基本目標 1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
基本的方向 (1) 民間企業の誘致による雇用の創出																		
1	ア. 上里サービスエリア周辺地区及び児玉工業団地への誘致活動	産業振興課	埼玉県企業立地課と連携、協力し、企業誘致活動を行っている。平成30年度は大阪で行われた埼玉県主催の企業立地セミナーにも参加し、企業誘致活動を行った。	上里サービスエリア下り線側の大和ハウス工業が取得した土地については、大和ハウス工業が営業活動を行っているのと併せ、埼玉県企業立地課とも連携、協力し、企業誘致を進めている。奨励金の交付はなかったが新規に進出した会社が1件ある。	概ね順調	埼玉県企業立地課と連携し、協力しながら企業誘致を進めていく。	継続	上里町企業誘致条例に基づく新規立地企業数	1社	0社	5年間の合計数3社	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、大阪市での企業誘致など精力的な活動を行っている。企業誘致の奨励金の申請がなかったものの新規企業は1件あり、目的に対する効果はあった。引き続き取組を継続する。	継続		継続
2	イ. 民間活力を導入した農村公園の整備	産業振興課	平成29年度に農村公園整備事業者を公募型プロポーザル方式により埼玉ひびきの農業協同組合に決定。平成29年11月には公園内に農産物直売施設「アグリパーク上里」を開設し、現在も順調に経営を行っている。	埼玉ひびきの農協農産物直売施設「アグリパーク上里」が開設してから1周年を迎え、平成30年11月17・18日には創業祭を行い、多くの来客者が訪れた。企業は進出しており、民間活力の導入という目的は達成している。	順調	農村公園内の整備・運営の事業主体は埼玉ひびきの農協となっているが、サービスエリア周辺地区への集客にむけ、町も連携・協力を行う。	継続	上里町企業誘致条例に基づく新規立地企業数	1社	0社	5年間の合計数3社	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	「アグリパーク上里」は誘致企業としての条件を満たしていないためKPIとしては達成していないが、目的に対する効果はあった。	継続		継続
3	ウ. 新たな工業系土地利用の調査・研究	産業振興課	埼玉県企業立地課や企業局からの指導を仰ぎながら、大御堂地内の工業団地の拡張や下水道用地の活用方法について検討する。	埼玉県企業局や企業立地課と連携を図り、情報提供を受け、県主催の企業立地セミナー等に参加し、企業誘致活動を行っている。新たな土地利用について、今後も企業立地課等関係機関と連携しながら、検討を進めていく。	概ね順調	企業誘致は新たな雇用の創出、税収の増加、転入による人口の増加等、地域経済への波及効果が期待できるため、今後も新たな工業系土地利用について調査等を進めていく。	継続	上里町企業誘致条例に基づく新規立地企業数	1社	0社	5年間の合計数3社	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。今後も積極的に情報を収集し誘致対象先に最新の情報を提供できるようにする。	継続		継続
4	エ. 新規立地企業に対する奨励金の交付	産業振興課	新規立地企業を誘致するための優遇措置として、新規立地企業に対し、施設奨励金、雇用促進奨励金、法人町民税奨励金を交付している。	平成29年度に新たに共立印刷(株)を優遇措置指定企業に指定し、平成30年度では共立印刷(株)に対し、施設奨励金・雇用促進奨励金を交付した。	順調	企業が新規に立地する際の検討材料として、画地の状況の他、市町村の優遇制度も考慮していると考えられるため、今後も優遇制度を継続し、企業誘致を推進する。	継続	上里町企業誘致条例に基づく新規立地企業数	1社	0社	5年間の合計数3社	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。企業誘致の際に積極的に補助制度をアピールし誘致につなげる。	継続		継続

基本目標 1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30 目標値	H30 実績値	R1 目標値	達成度	総合的 達成度	本部評価	本部の意見	取組 方針	審議会の意見	取組 方針
基本的方向 (2) 農業の担い手の確保																		
5	①新規就農者に対する支援	産業振興課	農地の確保や機械等の導入、経営の安定など、新規就農の課題解決のため、関係機関と連携し、営農計画等のサポートを行う。また、就農直後の経営確立を支援するための資金給付事業を行い、平成30年度は5名が事業を利用している。	平成30年度の新規就農者は10名となり、目標を達成している。	順調	担い手の高齢化が進む中、新たな担い手の確保は課題である。引き続き、埼玉県農林振興センター等の関係機関と連携し、相談窓口として就農希望者への情報提供などの支援を行う。	継続	新規就農者数	10人	10人	5年間の合計数 40人	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
								農地中間管理事業実施面積	75ha	121ha	75ha	①大きく達成(100%以上)						
6	②新たな担い手確保策の検討	産業振興課	埼玉ひびきの農協、埼玉県農業共済組合、児玉郡市内の市町と連携し、「児玉地域担い手育成総合支援協議会」を組織しており、そのなかで、新規就農希望者が就農できる体制を整備するために「児玉地域明日の担い手育成塾」を設置し、担い手の育成に取り組んでいる。	平成30年度の新規就農者は10名となり、目標を達成している。	順調	担い手の高齢化が進む中、新たな担い手の確保は課題である。引き続き、埼玉県農林振興センター等の関係機関と連携し、相談窓口として就農希望者への情報提供などの支援を行う。	継続	新規就農者数	10人	10人	5年間の合計数 40人	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
								農地中間管理事業実施面積	75ha	121ha	75ha	①大きく達成(100%以上)						
7	③農地の集積・集約の推進	産業振興課	上里中部土地改良区内の58・59・62・63工区(中部第1・3地区、農地面積約121ha)を対象に農地中間管理事業を実施した。	平成27年度から、対象地区を選定し実施している。過去3年間の集積面積は約3割となっており、今年度においても約3割の面積を集積した。	順調	最終的には、町内全域を対象に実施する予定であるため、引き続き実施する必要がある。	継続	農地中間管理事業実施面積	75ha	121ha	75ha	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続

基本目標 1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
基本的方向 (3) 農業の6次産業化による「かみさとブランド」の確立																		
8	①特色を生かした6次産業化の検討	産業振興課	ニンジンや梨、イチゴ等を使用した加工品のPRのため、様々なイベントで販売等を行う。	生産者の取組により、加工品の種類は増加しているが、「かみさとブランド」として町内外に知れ渡るまでには至っていない。平成30年度は「梨サイダー」を商品化、今後はPRに力を入れていく。	順調	「かみさとブランド」として確立できるよう、今後も町としてもPRを推進していく。また、町としても6次産業化に係る研修等に積極的に参加し、商品開発に向け取り組んでいく。	継続	6次化製品の開発数	1品	1品	5年間の合計数・5品	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
基本的方向 (4) 起業家への支援																		
9	①創業支援の仕組みづくり	産業振興課	平成30年度に新規起業家への店舗等の使用料及び改装費用を助成するための上里町起業家支援事業補助金交付要綱(平成31年4月1日施行)を新たに策定した。また、平成30年10月に創業支援事業計画(平成29年12月策定)を期間延長した。計画に基づき、平成29年度から起業家への基本的な情報提供や金融機関等につなぐ等を目的とした上里町創業サポート窓口を産業振興課にも設置している。	平成30年度は創業支援事業計画の基づく支援事業(個別相談指導等)を利用し、3名が新規に創業した。また、創業支援事業計画の連携支援事業である本庄早稲田国際リサーチパークが実施した「創業塾」には14名が参加した。「創業塾」は補助金交付対象となる講習会だったが本庄市を經由し県へ申請されたためKPIの達成にはならなかった。	概ね順調	地域の活性化のため、創業希望者の支援は必要な事業と考える。今後は支援事業の周知に積極的に取り組み、新規起業家の拡大を図る。	継続	創業支援事業計画に伴う補助金の交付件数	1件	0件	5年間の合計数・2件	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	KPIの達成にはならなかったが、創業支援という目的から考えると、3名の創業があったと言うことは目的に対し十分効果があったといえる。施策の目的達成への取組自体は行われたため、今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
基本的方向 (5) 女性・高齢者の働く機会の確保																		
10	①就職相談とセミナーの実施	産業振興課	産業振興課に相談窓口を設置し、ハローワークの求人情報を提供し、就職相談に応じている。	平成30年度については、13件の就職相談(情報提供)があり、目標は達成できた。	順調	町でハローワークの情報を提供する形での相談体制となっている。就職に際し、必要な書類等の発行はできないが、居住地で就職情報が入手できることにメリットがあるので、広報やHPで周知し、利用者の増加に取り組む。	継続	就職相談者数	10人	13人	5年間の合計数40人	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
11	②元気な高齢者が活躍する場の充実	高齢者いきいき課	健康で活動意欲のある高齢者に対し、働く機会を確保するため上里町シルバー人材センターが安定的に運営できるよう補助金を交付した。また、広報かみさとに上里町シルバー人材センターの紹介記事を掲載し、会員の増強に努めた。	目標値は達成できなかったが、全国的にシルバー人材センターの登録者数は減少傾向にあるなかで横ばいもしくは微増という状況は、健康で意欲のある高齢者への機会の提供という面から、一定の効果があったと考えます。	概ね順調	高齢者は増加していく状況にあり、またシルバー人材センターが町の総合事業の「家事支援サービス」の担い手となっていることから、事業の継続は必要です。ただし、定年延長や再雇用等、高齢者を取り巻く環境及び高齢者の意識の多様化も考慮した新しい職種を受託するとともに、シルバー人材センターの周知方法にも工夫が必要と考えます。	継続	シルバー人材センター登録者数	245人	215人	255人	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続

基本目標 2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30 目標値	H30 実績値	R1 目標値	達成度	総合的 達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
基本的方向 (1) 町の魅力を全国へ情報発信																		
12	ア. 町公式ホームページのリニューアルとSNSの活用	総務課	平成28年12月の町ホームページのリニューアル以降、各課で積極的な記事掲載を行っている。若いお母さんに興味を持っていただく子育て支援サイトも充実してきており、さらなる情報発信に力を入れている。	アクセス数は10万件を超えており、町の宣伝に効果があると思われる。各課において情報を掲載でき、随時更新が行われている。町民や議会からの関心度は高く、情報の探しやすさ、興味をひく画面構成などに工夫が必要だという意見を常にいただいている。	順調	ホームページへの関心は高く、より見やすいホームページ構成を心がけ、情報についてもより各課から積極的に発信ができるよう指導していく。また拡散力を持つSNSについても有効的に活用していく。	継続	ホームページ年間アクセス数 SNS登録者数	93,000件 570人	106,454件 596人	96,000件 600人	①大きく達成(100%以上) ①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
13	①積極的なタウンプロモーションの展開 イ. 「広報かみさと」の充実	総務課	記事内で文章だけだったものを、イラストや図などを多めに使い、ユニバーサルフォントなどでより見やすくなるよう心がけている。「ふるさと広報制度」により、町外の方でも送料自己負担で広報を手に入れることができるようにしている。新たに庁内の広報委員会を立ち上げ、年間の特集のスケジュールや、広報かみさとの充実の意見交換を行っている。また、都市の広報研究会では、見やすい広報誌づくりについて意見交換などを行っている。	広報は毎戸配布なので町内の方には手にとって見てもらえるようになっているが、概ね良い評価を得ている。ふるさと広報制度については1名の方が利用している。	順調	今後も見やすい広報誌づくり研究し取り組んでいく。ふるさと広報制度についても利用者が増えるよう宣伝に取り組む。また専門誌に掲載されるのも1つの情報発信となるので、広報コンクールなどに取り組んでいく。	継続	自治体広報応援メディア「マチイロ」アプリ登録者数	210件	283件	230件	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
14	ウ. データ放送サービスの活用	総務課	データ放送の入力は総務課とくらし安全課にある端末でできるようになっており、防災関係だけでなく、広く町のイベントや周知したい内容について1月1記事を目標にサービスを活用した。	町の行事案内(マラソン大会、ふれあいまつり、防災フェスティバル等)だけでなく、選挙啓発や職員採用など、多様な情報を掲載することにより町の情報を広く発信するよう努めた。	概ね順調	今後も様々な情報を提供できるよう、内容を精査しながら月1回以上を目標に取り組んでいく。	継続	データ放送年間掲載回数	11回	8回	12回	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
15	エ. 「こむぎっち」による町のPR	総務課	「こむぎっち」については、平成28年度にエア着ぐるみを追加作成し、現在は、計3体を保管している。当初作成の着ぐるみは主に貸し出し用として用意し、エアタイプについてはイベントで利用するようにしている。町主催イベントや県のゆる玉応援団イベント、ゆるキャラグランプリ、近隣市町のイベントなどに参加した。また、トートバッグやメモ帳を新たに作成し、ワーブ上里に加え、JAアグリパークでも委託販売をはじめた。	町外のイベントに積極的に参加し、「こむぎっち」による町のPRを行った。「こむぎっち」が注目を集めることで、町のイメージが良くなっている。初めて「こむぎっち」を見た方から「かわいいね」と言っていたいたり、以前、上里町に住んでいたという方からも「なつかしい」などのコメントをいただいている。活動回数が増えるほど皆さんの笑顔がいただけるという実感があがり、町のイメージアップに繋がっていると考えている。	やや不調	今後についても県や県内市町、隣接市町で参加要請されるイベントについて、積極的に参加し、情報交換も行いながら他市町と連携を強化し、「こむぎっち」による町のPRに力を入れていきたい。	継続	こむぎっち町外出張件数	27件	15件	30件	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、町外からの観光客が見込まれるアグリパークでのこむぎっちグッズ販売などこむぎっちのイベント参加以外の方法でのPRを行っており工夫は確認できる。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
16	②ふるさと納税制度を活用した特産物のPR	総合政策課	ふるさと納税返礼品として、寄附者に町の特産物を送付した。主な返礼品…彩さい牛:56件、梨(彩玉等):19件、いちご:14件 各種イベントへの参加、製MAP作成、農協直売所への情報コーナー設置等、上里産農産物のPRを実施した。(産業振興課) 加えて、ふるさと納税の寄附機会の拡大に向け、電子決済の導入について具体的な検討、調整を行った。(総合政策課)	返礼品として特産物を味わって頂くことで、魅力を直接伝えることができた。各種イベント等やHP上での特産品紹介により、特産物を広くPRできた。	順調	ふるさと納税サイト(令和元年度6月末より運用開始)の運用改善及び業者訪問等による返礼品の充実を含め、更なる町の魅力や特産物をPRしていく。	継続	町外からのふるさと納税年間寄附金額	170万円	151万円	200万円	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続

基本目標 2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30 目標値	H30 実績値	R1 目標値	達成度	総合的 達成度	本部評価	本部の意見	取組 方針	審議会の意見	取組 方針
基本的方向 (2) 観光事業の推進による交流人口の増加																		
17	①民間活力を導入した農村公園の整備	産業振興課	平成29年11月19日、農村公園用地に、埼玉ひびきの農協が運営する農産物直売所「アグリパーク上里」が開業した。施設内には、町の情報発信コーナーを設置し、町の観光パンフレットを配置し、町の観光PRを行っている。上里SA周辺で操業している事業者（農協、上里センター、中央軒煎餅）のPRパンフレットをイベントで配布し、SA周辺光PRに努めた。また、上記3者に上里町商工会、上里町を加えた5者で、定期的に打ち合わせを行い、情報の共有を行うとともに、11月には「アグリパーク上里」の1周年記念に併せ、3者で創業祭を行い、連携して集客数の拡大に取り組んでいる。	運営主体である埼玉ひびきの農協が「アグリパーク上里」を開業し、土、日曜日を中心に高速道路利用者等、新たな顧客を獲得し、客足を伸ばし、平成30年度は目標を達成している。	順調	「アグリパーク上里」では、事業主体である埼玉ひびきの農協がイベント等を実施し、新規顧客の獲得に取り組んでいる。 また、「アグリパーク上里」内には上里町の情報を発信する情報コーナーがあり、継続して町のパンフレットを配置するほか、積極的にコーナーを利用し、町のPRを行っている。	継続	農村公園年間来客数	25万人	25万5千人	30万人	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
18	②観光農業の推進	産業振興課	平成29年1月に上里SA周辺地区内に上里センターが「上里いちご&トマト園」を開園し、収穫体験を行っている。町では平成30年度に観光農園等SA周辺地区の在り方について、第1回目の農村公園周辺農業活性化勉強会を開催した。	勉強会では農村公園周辺の利用方法について、出席者により様々な提案がなされた。今後、勉強会が進み、観光農園等が新たに開設された場合には、目標である農村公園の来客者数の増加に繋がると思われる。	順調	農村公園周辺での観光農業については今後も勉強会を開催し、検討を重ねていく。	継続	農村公園年間来客数	25万人	25万5千人	30万人	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
19	③上里ゴルフ場の活性化	まち整備課	利用者数の目標値達成のため、管理運営事業者と連携し、まち整備課窓口で割引サービス券の配布や、町民ゴルフ大会や西崎キクカップ等のイベントを開催した。また、ふるさと納税の返礼品として、ゴルフ場の利用券を導入した。 その他、クラブハウス設備や駐車場の修繕などの施設改修工事を行い、利用者が快適に利用できるように利用環境の整備にも努めた。	H29・H30の利用者数は47,000人超であり、目標値を達成している。	順調	利用者数の目標値は、施設規模等を考えると現状の数値が上限である。今後、ゴルフ人口が減少していく中で、現状の利用者数を維持していくため、観光と連携した施策を検討する必要がある。	継続	上里ゴルフ場年間利用者数	42,900人	47,505人	43,000人	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続

基本目標 2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
基本的方向 (3) 若者を中心としたU I Jターンの促進																		
20	①町出身者の望郷心アップ事業の展開	総務課	将来、上里町への移住へと結びつける目的として、県北部地域(7市町)で連携し、移住定住促進ホームページ「埼玉移住」を運用している。望郷心を高め、Uターンを考えるきっかけとなるよう、さまざまな情報発信・アプローチを実施していく。積極的にふるさと紹介関連イベントへ参加し、町のPRを行う。	地方暮らしにとって、重要な要素として「住まい」が挙げられる。KPIの目標値は達成できていないが、北部地域連携事業として、埼玉移住促進モニターツアーの実施、また、東京国際フォーラムにおいて、7市町で「ふるさと帰郷フェア」への出展を行い、また熊谷市で行われた「さとやまさとうみフェスティバル」で町のPRに努めた。	やや不調	今後も町の魅力・スケールメリットをいかした県北部のイメージアップにつなげ、積極的に情報発信・イベントに参加し、望郷心アップに繋げる。埼玉県を移住先の一つとして捉えられるように、7市町で企画している「お試し居住」について研修に参加し実施について検討している。	継続	転入者向けアンケートで「転入先として、上里町を選んだ理由」で「①以前、住んでいた。	50%	18%	50%	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて「お試し居住」等の工夫しながら事業を継続する。	継続		継続
21	②空き家対策の推進	くらし安全課	県北7市町で構成される埼玉県北部地域地方創生推進協議会の「空き活用事業部会」として、空き家利用促進ホームページ「埼玉空き家バンク」の充実を図った。また、のぼり旗の作成・掲揚、ちらしの作成・配布を行った。	県北7市町のうち、熊谷市、深谷市、本庄市、神川町では登録が有るが、他3町では無い。上里町では相談はあったものの登録には至らなかった。	不調	空き家バンクを運用しているものの、利活用に向けた相談等は少ないのが現状。U I Jターンの促進と空き家対策は切り離し、別の指標を設定するのがよいと考える。令和元年度は空き家調査を行い実態把握を行う。	継続	利活用された空き家数	2軒	0軒	5年間の合計数・5軒	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後は空き家調査の結果を活用しより深いPR等を行い事業を継続する。	継続		継続
22	③定住促進奨励金の交付	総合政策課	平成30年4月1日以降に上里町に新築住宅を建てて転入してきた35歳以下の方に「定住促進奨励金」として10万円を交付する。 35歳以下、新築住宅の他にも、親世帯が上里町に住んでいることや、町税に滞納が無いこと等も条件になる。	平成30年度から事業を実施し、年5件の申請を見込んで予算化していた。問い合わせは複数あったが、実際に申請があり、交付決定がされたのは4件だった。	やや不調	若い世代が上里町にU I Jターンするにあたり、上里町に住むことをより魅力的に感じようとする必要があるが、アンケート結果から分かるように、現在の形態では不十分であるといえる。今後は事業の内容を見直す必要がある。	継続	「上里町定住促進奨励金」交付決定者アンケートで「定住促進奨励金が上里町に定住するきっかけになった」	50%	0%	50%	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、U I Jターンの促進のための施策については継続的に行っていく必要がある。今後は、不動産会社等もっと早い段階で交付金の存在が確認できるよう積極的にPR行い事業を継続する。	継続		継続

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
基本的方向 (1) 出会いと婚活の支援																			
23	①出会い・婚活サポート事業の展開	総合政策課	北部地域地方創生推進協議会の結婚支援事業部会の部会長市町として、婚活イベントを実施し、北部地域在住在勤者の結婚の希望を叶える場を提供する。また、町としては、県のSAITAMA出会いサポートセンターの協賛会員として、町内在住の未婚者への情報発信及び登録料負担の軽減等を実施している。	平成30年度は1件の大規模婚活イベントを本庄市で開催した。このイベントでは男性66人、女性61人が参加し、カップルは17組成立した。うち上里町民を含むカップルは2組だった。北部地域地方創生推進協議会企画市町村の婚活イベントに対し、支援事業として補助金の交付を行った。また、SAITAMA出会いサポートセンターの広報をホームページや広報などで行った結果、上里町民の登録者数は男性5人、女性4人となった。イベント参加者の後追調査が未実施なため、婚姻届け出数に直接影響があったかは不明。上里町民の参加者のカップル成立数は2組とKPIの達成には至らなかったが、出会いの場の提供という点では予定通りに実行できている。	概ね順調	今後も県北7市町村の共同による婚活事業を継続実施する。また、上里町民の婚活イベント参加率向上のために、効果的な広報手段等についても検討する。KPIについては達成できなかったが5年計画での進捗については4年目で計7件と予定通りであり順調といえる。イベントにおけるカップル成立率も悪くないため、広くPRをして上里町民の参加人数を増やすことで、目的達成を目指す。	継続	上里町民の婚姻届出数	164件 (H26実績維持)	137	164件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	0.8	やや不調	目標値は達成できなかったが、カップル成立等の成果は出ている。今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	継続	目標値は達成できなかったが、カップル成立等の成果は出ている。今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	継続	
								婚活パーティーのカップル成立数(男女どちらかが上里町民に限る)	3組	2組	5年間の合計数10組	③未達成(70%未満)							
基本的方向 (2) 妊娠と出産の支援																			
24	①不妊治療への支援	健康保険課	子どもを望む夫婦に対し不妊治療に係る費用の負担軽減のために、一年度あたり10万円を上限5回までに助成を行う。夫婦共に受けた不妊検査に対して、2万円を上限に助成を行う。不育症の検査に対しても、2万円を上限に助成を行う。	不妊治療の助成件数は目標値を大幅に上回り、子どもを望む夫婦に対し不妊治療に係る費用の負担軽減と少子化対策の推進に寄与できた。	順調	子どもを望む夫婦に対して、費用の負担軽減や少子化対策になるため、今後も不妊治療費、早期不妊検査費、不育症検査費について、助成を実施していく。	継続	不妊治療助成件数	13件	38件	5年間の合計数50件	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値を達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続	
25	②妊娠期における健康づくり	健康保険課	歯周疾患に罹患しやすい時期にある妊婦に、妊婦と生まれてくる子の予防歯科への意識を高め、元気な赤ちゃんを出産するために「妊婦歯科健診」を実施する。	「妊婦歯科健診」の受診率は、目標には届かなかったが、産婦人科へのポスターやチラシの配布などを実施し、受診率が向上した。妊婦歯科健診の重要性を説明したことにより、早産のリスクや虫歯菌の母子感染等の軽減につながることを周知され、母子の歯の健康につながった。	順調	妊婦歯科健診の機会を設けることで、口腔衛生の向上、母子の歯の健康につながるため、受診率向上に努める。	継続	妊婦歯科検診受診率	65.0%	40.3%	80%	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続	
基本的方向 (3) 子育てしやすい環境の整備																			
26	ア. 子育て情報サポート	子育て共生課	町子育て支援サイト「むぎゅっと」を公開し子育て情報を充実させた。また、スマートフォンを活用した子育て支援アプリ「はぐたま」かみさとも活用開始。町ホームページでは、利便性向上のため、保育園入所の申請書類をアップシタダウンロード可能にしたり、児童館のイベント情報を掲載するなど子育て支援の充実を図った。	「むぎゅっと」「はぐたま」かみさとの公開、児童館のイベント情報掲載により、わかりやすく、より多くの情報を提供できるようになり、子育て世代に対する支援を進めることができている。	概ね順調	HP等を利用した情報発信については、今後も継続して進めていく。さらに内容の更新等充実を図り、子育て世代への情報提供を促進する。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続	
								町HP子育てページ年間閲覧数	33000	27974	36000	②ほぼ達成(70~100%未満)							
27	①こむぎっち子育てサポート事業の推進	イ. 働くパパママサポート	子育て共生課	保育所：待機児童解消に向けて、民設民営の保育所2箇所を整備し定員増を図った(うち1箇所は保育所から幼保連携型認定こども園へと移行した)。また、令和2年4月開所予定の公立保育所新園舎開所に向け、実施設計業務などを行い、本体工事の準備が整った。放課後児童クラブ：待機児童を解消するため、民設民営の放課後児童クラブを1箇所整備した。	保育所：目標値は達成できなかったが、年度前半では、入所希望を叶えることができた。低年齢児が課題である。放課後児童クラブ：目標値を達成できた。民設民営のクラブも予定どおり1箇所開設され、今後は待機児童0を目指す。	概ね順調	保育所：低年齢児の確保量が依然不足しており、年度途中に待機が発生する。今後は子どもの減少や無償化制度による保育ニーズの増による保育需要を見極めながら、小規模保育事業所整備の検討も視野に入れる。放課後児童クラブ：民設民営のクラブを整備したが、引き続き待機児童が存在するようであれば、町内の民設クラブとの利用調整について検討しなければならない。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	1.2	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
									保育園待機児童数	5人	11人	0人	③未達成(70%未満)						
									児童クラブ待機児童数	6人	5人	0人	①大きく達成(100%以上)						

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針	
28	ウ. 子だくさん家族サポート	子育て共生課	第3子以降の保育料について、兄弟の年齢に関係なく無料化とする。	目標値には届かなかったが、第3子以降の保育料軽減の人数を維持しており、また昨年度の実績を上回っていることから、ある程度の効果があった。	概ね順調	引き続き第3子以降の保育料を無料化することで、保護者の経済的負担を軽減し、少子化対策を図る。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成 (70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続	
								第3子以降保育料軽減対象者数	150人	112人	162人	②ほぼ達成 (70~100%未満)							
29	①こむぎっち子育てサポート事業の推進	エ. 地域で子育てサポート	子育て共生課	0歳から就学前の子どもと保護者を対象に、保護者が気軽に育児相談やその他の子育て家庭との交流ができる地域子育て拠点を実施した。また、地域で子育てを支えあう環境づくりを推進するため、地域において親子で活動しているサークル等に対して、財政的支援を行う補助事業、ファミリー・サポート・センター事業を実施する。	子育て支援拠点：町の広報紙等による広報は行ったが、保育園就園児が増えたことで利用対象児が減少したことが要因か、KPI目標値には届かなかった。しかし、目標値には届かなかったものの、子育て親子の交流や子育てに関する悩みを相談する環境の整備につながっているという点では予定通りに実行できている。 親子サークル支援：窓口や電話等での問合せはあったが申請までに至らなかった。 ファミリー・サポート・センター事業：今年度より利用件数の集計方法が変更されたため、KPI値での比較は難しいが、会員数も伸びており地域で子育ての意識が浸透してきた。	概ね順調	子育て支援拠点：目標値には届かなかったものの、子育て環境整備という面ではある一定の効果はありと考えられる。更なる向上を図るため、広報、ホームページ等を活用し利用者増を目指す。令和元年度からは新たな支援拠点も設置され、子育て世代包括支援センターの開設も併せ、窓口にもお便りを置き情報を発信し、連携して事業を進める。 親子子育てサークル：事業内容の見直し、変更廃止を含め検討する。 ファミリー・サポート・センター事業：令和元年度10月より、幼児教育・保育の無償化が始まり、ファミリー・サポート・センター事業もその対象となるため利用増も見込まれるので継続して実施する。	変更・廃止	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成 (70~100%未満)	1.2	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
									地域子育て支援拠点年間利用者数	3,500人	1304人	4,000人	③未達成 (70%未満)						
									ファミリー・サポート・センター利用回数	40件	356件	50件	①大きく達成 (100%以上)						
									親子サークル支援件数	4件	0件	5件	③未達成 (70%未満)						
									放課後子ども教室設置学校数	1小学校	5小学校	(全5小学校)	①大きく達成 (100%以上)						
30		生涯学習課	全ての子どもを対象とした多様な体験・交流活動等の提供と、放課後に安全かつ安心して活動できる場所を目的とした、放課後子ども教室を全小学校に設置する。	平成29年度に全小学校に放課後子ども教室を設置することができた。	順調	引き続き、放課後子ども教室設置学校の維持、ボランティアの質の向上、事業内容のさらなる充実を進める。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成 (70~100%未満)	1.2	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続	
								地域子育て支援拠点年間利用者数	3,500人	1304人	4,000人	③未達成 (70%未満)							
								ファミリー・サポート・センター利用回数	40件	356件	50件	①大きく達成 (100%以上)							
								親子サークル支援件数	4件	0件	5件	③未達成 (70%未満)							
								放課後子ども教室設置学校数	1小学校	5小学校	(全5小学校)	①大きく達成 (100%以上)							

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
31	オ. 親子ふれあい遊び場サポート	子育て共生課	公立保育園の園庭を開放し、親子で安心して遊べる場と地域の親子同士の交流の機会を提供する。	目標値には届かなかったが、親が子供を安心して遊ばせることのできる場を提供できた。	概ね順調	目標達成に向けて、新たに開設される子育て世代包括支援センターでも広報等の周知に努め、今後も安心して子どもが遊び、親子で交流を図れる場を提供するために事業を継続する。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	0.7	やや不調	目標値は達成できなかったが、公園については令和元年6月に3か所目が完成し、最終目標を達成している。庭園利用については制度の情報が得にくく、また制度の利用方法についても使いやすさについては少ないものの利用者自体はいるため、幅広くPRを行うなど工夫しながら事業を継続する。	継続	公園については令和元年6月に3か所目が完成し、最終目標を達成している。庭園利用については制度の情報が得にくく、また制度の利用方法についても使いやすさについては少ないものの利用者自体はいるため、幅広くPRを行うなど工夫しながら事業を継続する。	継続
								街区公園整備数	3か所	2か所	3か所	③未達成(70%未満)						
								保育園園庭年間利用者数	200人	25人	288人	③未達成(70%未満)						
32	オ. 親子ふれあい遊び場サポート	まち整備課	神保原駅南地区都市再生整備計画事業として、H29にあおぞらパークを開園し、3号公園(名称:どんぐりの丘公園)の整備を行っている(R1開園)。	神保原駅南地区には、久保新田コミュニティ公園と、あおぞらパークの2件の街区公園が整備されており、3号公園(名称:どんぐりの丘公園)についても令和元年度6月に開園した。	概ね順調	子どもたちが安心して遊べる場として、神保原駅南地区に、街区公園の整備を行った。今後、他の地区にも街区公園の整備が必要かどうかも含めて検討する。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	0.7	やや不調	目標値は達成できなかったが、公園については令和元年6月に3か所目が完成し、最終目標を達成している。庭園利用については制度の情報が得にくく、また制度の利用方法についても使いやすさについては少ないものの利用者自体はいるため、幅広くPRを行うなど工夫しながら事業を継続する。	継続	公園については令和元年6月に3か所目が完成し、最終目標を達成している。庭園利用については制度の情報が得にくく、また制度の利用方法についても使いやすさについては少ないものの利用者自体はいるため、幅広くPRを行うなど工夫しながら事業を継続する。	継続
								街区公園整備数	3か所	2か所	3か所	③未達成(70%未満)						
								保育園園庭年間利用者数	200人	25人	288人	③未達成(70%未満)						
33	①こもぎっち子育てサポート事業の推進	カ. 育メンサポート	子育て共生課	男性がもっと積極的に育児に関わるきっかけとして、小学校就学前の子どもと父親と一緒に参加する「パパと子どもの料理教室」を開催する。	順調	子どもとの触れ合いを通じて男性も積極的に子育てに参加するきっかけの一つとして浸透しており、今後も継続して実施する。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
キ. 子育て家計サポート		子育て共生課	満1歳未満の乳幼児を持つ親に対し、乳児が必要とするおむつの購入費用を助成することにより、乳児期の子育てに係る経済的負担を軽減し、子どもの健やかな成長の促進を図る。	順調	乳児期の子育てに係る経済的負担の軽減に有効であるため、引き続き継続することで子育て支援を図る。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続	
ク. 子育てお出かけサポート		子育て共生課	子育て世帯が気軽に外出できる環境整備を促進するため、おむつ交換台やベビーチェアを整備した商業施設等に対し、助成金を支給する。	不調	ポスターを掲示する等、周知はしたものの実績には結びつかなかった。制度への要望把握を行い内容、活用方法等変更更止等を含めて検討する。	継続	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	0.8	やや不調	目標である子育てサポートについては重要なため継続が必要だが、取組内容については検討を行う。	継続		継続	
外出環境整備施設数	3か所	0か所	5年間の合計数12か所	③未達成(70%未満)														
36	ケ. いのちの大切さサポート	子育て共生課	成人式において、これから成人を迎える若者に対し、家庭を持つことの喜びと大切さを伝える講演会を開催する。また、町内小学5年生に対し、いのちの誕生に携わる専門職である助産師を講師とした、いのちの大切さ出前講座を実施する。	成人式において、近々結婚・出産・子育てを行う可能性のある多くの成人に対し講演が行えたため、目標を上回る実績値となった。また、いのちの大切さ出前講座においても、多くの参加者から「いのちの大切さがわかった」との感想をもらった。	順調	家庭を持つことの喜び・大切さを伝える講演会を成人式に行うことは、若者の近い将来に希望を持ってもらうことができ非常に効果があると思われるので、今後も継続する。また、いのちの大切さ出前講座についても、多感な時期に行い、いのちの尊さを知ることで自分や他の人を大切にすることを育てるきっかけとなるものなので、継続して実施する	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成(70~100%未満)	1.5	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続	
							いのちの大切さサポート講演会参加者数	82人	291人	87人 (合計400人)	①大きく達成(100%以上)							

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
37	①こもぎっち子育てサポート	コ. 発育・発達すくすくサポート	町民福祉課	発達が気になる子ども等への早期支援のための事業で町内の社会福祉法人事業所へ委託しており、発達障害に関する専門的な知識を有するもの（臨床心理士等）が町内の保育園・幼稚園などを定期的に巡回（年3回）を行い、保育園での子供の様子から保育士等に対して子ども及び保護者への具体的な支援について助言・指導を行う。	平成30年度においては、町内全保育園・幼稚園で実施した。専門的な知識を有する者が定期的に巡回し支援のための助言を受けられることにより、発達が気になる子ども等への早期支援する体制は整ってきている。	順調	発達が気になる子ども等への早期支援は重要なことであり、引き続き保育園及び幼稚園に事業の目的や必要性を理解いただきながら、発達が気になる子ども等への早期支援を行うための指導・助言を継続実施していく。	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成 (70～100%未満)	1.3	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続	継続	継続
								子ども発達巡回支援回数	28回	26回	5年間の合計数121回	②ほぼ達成 (70～100%未満)						
								5歳児健康相談受診率	88.0%	94.9%	88%	①大きく達成 (100%以上)						
38	①こもぎっち子育てサポート事業の推進	コ. 発育・発達すくすくサポート	健康保険課	軽度の発達上の問題や社会性の発達における問題が明らかになってくる5歳児で健康相談を実施することで、発達障害の早期発見・支援、就学に向けての相談に対応した。また、「ことばの相談」「うさぎの相談」「発達相談」「赤ちゃん相談」「うさぎちゃん広場」「親子教室」「うさぎちゃん広場」なども実施し、発育や発達に関する相談や支援を行った。	児の発達を確認し一人ひとりに合わせた相談を実施することができ、一定の効果があった。	順調	軽度の発達上の問題や社会性の発達における問題が明らかになってくる5歳児で健康相談を実施することで、発達障害の早期発見・支援、就学に向けての相談に対応していく。	出生数	214件 (H26実績維持)	187人	214件 (H26実績維持)	②ほぼ達成 (70～100%未満)	1.3	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続	継続	継続
								子ども発達巡回支援回数	28回	26回	30回	②ほぼ達成 (70～100%未満)						
								5歳児健康相談受診率	88.0%	94.9%	88%	①大きく達成 (100%以上)						
基本的方向 (4) 未来を担う子どもたちへの教育支援																		
39	①確かな学力と体力の育成	ア. 教員指導力向上研修と学力向上授業研究会の実施	教育委員会学校教育指導室	①文教大学と連携し、教育学部の教授や准教授を招聘し、国語科と算数科における教員の指導力向上を目指す校内研修会の実施。実施状況は各小学校年6回。 ②埼玉大学等と連携し、教育学部の教授等を招聘し、共同的な学びを通して教師の指導力向上を目指す校内研修会を実施。実施状況は各中学校年5回。 ③各学校へ総合的指導を行う学力向上指導員を配置し、きめ細かな教育支援を行い、学校全体の「学校力」、教員個々の「指導力」の向上を目指す。配置人数1名。 ④学び合い学習の推進を図るため、学び合い学習の先進校への視察を実施。実施状況年2回。 ⑤小・中学校の研修会の連携と町内全教職員を対象とした教育講演会の実施。講演会実施状況は年1回。 ⑥上里町全教職員を対象とした、上里町学力向上授業研究会（発表は毎年3校）の開催。研究会実施状況は年1回。	①2年間計画に位置付け、指導力向上につながる有意義な研修が実施された。 ③研修だけでなくとどまらず、日々の教職員の授業改善に向けたきめ細かな支援が行われ、教職員の授業における進捗への役割となった。 ④⑤⑥校内にとどまらず町内で学び合いについて見識を高めるとともに、各教職員が取り組むべき方向性を確認することができた。	順調	児童生徒に求められている資質・能力を身に付けられるよう、今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいく。	継続	授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成 (70～100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続	継続

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
40	①確かな学力と体力の育成	イ、各種調査を活用した児童生徒の基礎学力の定着	教育委員会学校教育指導室	<p>①各種調査等から、特別な支援を要する児童生徒を事前に把握し、児童支援員や学習支援員の他、介助員や特別支援学級生活支援員を関係する学校に配置した。</p> <p>②県より委嘱を受けている「チーム埼玉学力向上パワーアップ事業」において、効果のあった取組を全校で共有した。</p> <p>③基礎学力のさらなる定着に向け、4月5日に第1回上里町学力向上推進委員会を開催し、前年度の各種調査の結果と課題を踏まえた本年度の町や各校の取組を共有した。</p> <p>④4月に実施された全国学力・学習状況調査実施後、主に全小中学校で各学校の教職員が「自校採点」を行い、成果と課題を明らかにして授業改善を推し進めた。</p> <p>⑤全国学力・学習状況調査の結果分析を大学教授等に依頼し、調査結果に基づいた授業改善に活かした。</p>	概ね順調	引き続き、各種調査を分析して効果的に活用し、児童生徒の基礎学力のさらなる定着のため、町と学校が一丸となり、人的支援を含めた取組を実施していく。	継続	全国学力学習調査において全国平均を100とした時の上里町の値(国語・算数・数学)	国語98 算数・数学 96	国語90 算数・数学 85	国語100 算数・数学 100	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続	継続	継続
								授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)						
41		ウ、学校指導員配置による学校力の向上	教育委員会学校教育指導室	<p>①学校教育に対し専門的識見を有し、指導技術を身に付けており、学校力向上に実績のある前上里中学校長を「学力向上指導員」として委嘱し、全小中学校7校に派遣した。</p> <p>②各学校の学校力向上を図るため、主に若手教員の授業力向上のため授業参観後に指導助言をしたり、教職員研修会で講演したりするなどの取組を行った。</p> <p>③北部教育事務所の支援担当訪問時に、学び合いを中心に全体会での指導を行った。</p>	概ね順調	今後も引き続き、学校力向上ため、教育委員会、各学校と連携して、教員の指導力向上を通して、各学校の学校力向上を推進していく。	継続	全国学力学習調査において全国平均を100とした時の上里町の値(国語・算数・数学)	国語98 算数・数学 96	国語90 算数・数学 85	国語100 算数・数学 100	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続	継続	継続
								授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)						
42	①確かな学力と体力の育成	エ、特色ある体力づくりの推進	教育委員会学校教育指導室	<p>①トップアスリートで構成された体育実技指導員による体育授業の支援により、児童を運動好きにするともに体力と運動技能の向上を目指す。実施状況は各小学校50時間、配置人数2名。</p> <p>②中学校の部活動について、スポーツエキスパートとして外部指導者を配置し、体力向上や技能向上の支援を行う。実施状況は各校2名配置。</p> <p>③体力向上を推進するため、全小中学校から招集し、上里町体力向上推進委員会を実施している。実施状況は年3回。</p> <p>④埼玉県体力課題解決研究指定校(上里中)の取組を通して、一人一人の体力課題を把握し、課題解決に向けた体育授業・体育活動の実践を行った。</p>	やや不調	今後も継続し、県の事業を活用し、さらなる整備と拡大を図る。日本女子体育大学等と連携し、きめ細かい分析と課題解決の取組を実施する。	継続	新体力テスト(144種目)において県平均以上である種目	80種目	39種目	83種目	③未達成(70%未満)	0.8	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて、日本女子体育大学との連携等、目標達成に向けて工夫をしながら事業を継続する。	継続	継続	継続
								授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)						
43	②子どもの学びを支える環境づくり	ア、ALTを活用した外国語教育の推進	教育委員会学校教育指導室	<p>①ALT4名を小中学校7校に派遣し、小学校では5・6年生の外国語活動以外、低学年・中学年の国際理解教育にも活用するなど、外国語に慣れ親しむ学習の充実を図った。</p> <p>②中学校でも年間指導計画に沿って、英語科の教員と共に、生徒の英語力を伸ばすため、英語におけるコミュニケーション能力の基盤となる基礎的・基本的な知識や技能の習得を図った。</p>	順調	引き続き基礎的・基本的な知識や技能の習得するための授業展開を工夫したり、ALT(外国語指導助手)を効果的に活用するなどの指導の充実をさらに図る。	継続	埼玉県学力・学習状況調査(中学2年英語)において「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の値	82.0%	-	83%	-	1	概ね順調	平成30年度分の埼玉県アンケートではKPIとなっている設問がなかった。効果検証ができなかった。事業としては英語でしゃべろう合宿等の英語に親しむ取り組みを、今後も継続して行う。	継続	継続	継続
								授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)						

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
44	②子どもの学びを支える環境づくり	イ. 理科教育の推進	教育委員会学校教育指導室	①理科が得意な元校長2名・教頭1名を理科支援員として委嘱。全小学校5校に派遣し、理科の授業における観察・実験活動の事前準備及び理科授業における支援を行った。 ②理科の効果的な指導について、教員に助言や情報提供を行うなど、教員の資質向上を図った。	順調	理科支援員を配置し活用することで、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質向上を図るとともに、子供たちの理科に対する興味・関心を高めながら学力向上に繋げていく。	継続	理科が好きな児童生徒の割合	83.0%	80.0%	84%	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
								授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)						
45	ウ. 中学生の自主学習の支援	教育委員会学校教育指導室	①小中学校にて、家庭学習の推進のために「自主学習のすすめ」などを各校作成し、配布することで啓発をしている。 ②中学校3年生を対象として、学習支援と希望する進路の実現をねらいとし、「学力アップ教室」を実施している。実施状況は年間63回実施。	①各校4月に保護者向け、生徒向け「自主学習のすすめ」や「自主学習のやり方」など作成し配布した。日々、自主勉強ノートを提出させチェックと賞賛の声かけを行った。 ②高校入試に向けた自主学習の支援や学習支援を行うことができた。	順調	○自主学習プリントの作成や自主学習ノートの作成など検討していく。 ○学力アップ教室の学習支援員の確保など早期に取組をしていく。	継続	全国学力学習調査において全国平均を100とした時の上里町の値(国語・算数・数学)	国語98 算数・数学96	国語90 算数・数学85	国語100 算数・数学100	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
								授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)						
46	②子どもの学びを支える環境づくり	エ. ICTを活用した効果的な学習の展開	教育委員会学校教育指導室	①小学校5校に児童用タブレット60台及び投影機、書画カメラ等を設置した。 ②タブレットパソコンや書画カメラなどのICTの効果的な活用方法を校内研修会や学校訪問などで各学校に指導助言及び情報提供した。 ③ICT支援員が各校を巡回し、ICTを活用した授業作りなどについて指導助言及び情報提供をした。	順調	ICTを効果的に活用し、学力向上に効果のあった学校の取組を町全体で取り組む。	継続	授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)	1.5	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
								小・中学校ホームページ月間アクセス数	月4,200件	月15,000件	月6,000件	①大きく達成(100%以上)						
47	オ. 児童生徒の個に応じた支援体制の確立	教育委員会学校教育指導室	①不登校対策や個に応じた相談体制をつくるために、教育相談機関として各中学校へさわやか相談員(1名)・スクールカウンセラー(1名)を配置している。計4名配置。 ②不登校対策や個に応じた支援体制をつくるために、教育相談機関として各小学校へ児童支援員を配置している。計5名配置。 ③個に応じた支援体制をつくるために、通訳(上里東小2名)、介助員(神保原小2名・長幡小1名・七本木小2名・上里東小4名・實美小1名・上里中1名)、特別支援学級生活支援員(上里東小1名・七本木小1名)、学習支援員(上里中1名・上里北中1名)を配置している。 ④生徒・保護者・学校への支援体制として小学校へスクールソーシャルワーカーを1名配置している。 ⑤学校・保護者・地域・関係機関が連携して子供たちへの支援のために各中学校にサポートチームを設置している。	○不登校の要因が複合的要因(怠学傾向・家庭環境・精神的など)がさらに複雑化する中、個に応じた相談・支援が行われた。	やや不調	○今後の児童生徒に対して、個に応じたきめ細やかな相談・支援体制を構築し、さらなる見守り体制を図る。今年度より中学校だけだったスクールカウンセラーを各小学校へも配置し支援体制を強化する。	継続	授業の満足度	86.0%	84.0%	87%	②ほぼ達成(70~100%未満)	0.8	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	継続		継続
1年間に30日以上欠席した不登校児童生徒数	17人	52人	15人	③未達成(70%未満)														

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
基本的方向 (1) 安心安全でくらしやすいまちづくり																		
47	ア、地域防災計画の見直し ①災害に強いまちづくりの推進	くらし安全課	平成25年3月以来の大幅な見直しを行い、地域防災計画の改定を行った。	平成25年3月の地域防災計画の改定以降、日本各地で発生した大規模災害で浮き彫りになった問題点を踏まえた法令等の変更やガイドラインの発表等に対応した内容に改めることができた。	順調	いつ発生するか分からない災害時のマニュアルとして使用する。また、法令等に変更が生じた場合には迅速に対応する。	継続	防災メール登録者数	2,250件	2,851件	2,500件	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
48	イ、災害情報伝達の充実	くらし安全課	登録制メールの利用促進を図るため、広報紙への掲載や防災講習会でチラシを配布するなど、様々な機会を捉えて周知を行った。	平成30年4月1日時点の登録者は2,020人であったが、実績値は2,851件と目標を大きく上回って達成できた。	順調	今後も情報発信手段の1つとして登録者数の増加を図り、災害や防犯における迅速な情報発信手段として登録制メールを活用していきたい。	継続	防災メール登録者数	2,250件	2,851件	2,500件	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
49	②犯罪のないまちづくりの推進	くらし安全課	警察官OBを「安全安心まちづくり推進委員」として採用し、町内パトロールを実施したほか、防犯ブザーを小学校新1年生に配布した。防犯のぼり旗を全行政区へ配布した。自主防犯パトロール隊のボランティア保険代や備品購入費に対して補助金を交付した。防災行政無線による町内放送と登録制メールによる情報発信をした。	全ての取組において効果はあったと考える。しかし、数値としては達成に至らなかった。また、防犯のぼり旗については劣化が早く、追加要望する区長がいた。	概ね順調	今後も、防犯パトロールの実施、防犯ブザーの配布、防犯のぼり旗の配布、防犯パトロール隊への補助等、継続的に実施する。	継続	年間犯罪率(人口1,000人あたり)	8.4	11.3	8	②ほぼ達成(70~100%未満)	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
50	③交通事故のないまちづくりの推進	くらし安全課	交通事故を防止するため、警察及び道路管理者等と協議し町道上の交通安全施設(道路反射鏡や道路区画線及び防犯灯の設置・補修)の整備を実施した。 交通安全教育として、町内全小学校の4年生や高齢者を対象に、自転車免許制度を実施している。交通安全教育技能コンクールや交通安全自転車大会へ参加するなど、交通安全についての興味と関心を高め、その習慣化を図ることにより交通事故防止を図った。 交通安全啓発活動として、各季の交通安全運動に加え、藤岡警察署、児玉警察署、近隣市町と連携し幹線道路において街頭啓発活動を実施した。 独自の活動として、本庄警察署長と上里町長の連名にて「交通安全広報大使」を委嘱し、年間を通じて地域に根差した交通事故抑止活動と官民一体となった広報啓発活動を展開している。	目標値180件に対して、165件と大きく発生件数を減らすことが出来た。交通安全に関する活動状況を、広報かみさと、フェイスブック、上里町ホームページ、くらし安全課で毎月発行の交通安全情報チラシ等を通じて発信することにより、町民の交通安全に対する意識の高揚につながることが出来た。	順調	埼玉県内でも交通事故発生率が高いことを多くの町民に認識していただき、さらなる交通事故減少の取組を行っていく。	継続	交通事故発生年間件数	180件	165	167件	①大きく達成(100%以上)	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
51	④障がい者の視点に立った公共施設の利便性向上	総合政策課	町内各公共施設を障がい者も利用しやすいものにするため、駐車場の青色塗装を実施。身体障がい者の方が使える駐車スペースの整備を実施した。	身体障がい者用駐車スペースの整備を5施設7件実施した。アンケート未実施のため効果は不明だが、件数に増やすことができており、進捗としては順調である。対象施設23施設中16施設が済み、残り7施設8件	順調	今後も公共施設駐車場の青色塗装を継続して実施していく。青色塗装は残り7施設8件を完了する予定。青色塗装以外にも公共施設の利便性向上に関連する事業があれば積極的に検討する。	継続	公共施設を利用しやすいと思った割合	-	-	0.7	-	-	概ね順調	まちづくりアンケートの設問をKPIとしていたため効果検証ができなかった。施策としては令和元年に完了予定のため順調である。	継続		継続
52	⑤高齢者が住み慣れた地域で、安心してくらすまちづくりの推進	高齢者いきいき課	高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるよう、町内の福祉サービスを整理して1冊にまとめた「上里町高齢者向け福祉サービス」を作成し、見守りキーホルダーとシールの周知に努めた。 そして、認知症又は認知症の疑いがある方や急な発作を伴う心疾患や高血圧の方に見守りキーホルダーと見守りシールを交付した。(SOSネットワークへの登録も併せて動めている。)	見守りキーホルダーとシールの交付に伴う登録者数の目標値は達成できなかったが、キーホルダーを持つことで、身元の迅速な確認が可能となり、対象高齢者が地域で暮らし続けていく上の一助となっている。	やや不調	認知症高齢者の増加と単身及び高齢世帯の増加に伴い、地域で安心して暮らし続けることができるよう、引き続き町民の方々に広く周知していく必要がある。 また、町民や民間事業者が地域の中で異変を察知して民生委員や町民に知らせる緩やかな見守りが実施されるよう働きかけていく必要がある。キーホルダーの配布について各種サポーター講座でもPRをしてサポーター側からも働きかけてもらう。	継続	見守りキーホルダー登録者数	80人	48人	115人	③未達成(70%未満)	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	継続		継続

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
基本的方向 (2) 生涯を通じた健康づくりの支援																		
53	①住民が主役の健康づくり活動の推進	ア. 高齢者の元気づくりの応援	高齢者いきいき課	「自分の健康は自分で守る ～上里町元気度アップ大作戦～」をテーマに平成27年度より「介護予防サポーター養成講座」を年2回 8日間コースに実施している。介護予防サポーター養成講座修了後は、地域の「こむぎっち ちよっくら健康体操」において、体操の指導や高齢者支援などを行い、高齢者の元気（健康）づくりの応援隊となっている。	目標値を大きく上回り、5年間の合計数に達している。地域のために何かしたいと考えている方や健康に興味のある方が養成講座を受講して各地で活動する他、地域の区長、民生委員等の協力も得て、高齢者の元気づくりを住民主体で実施することができた。	順調	体操の普及に伴い、引き続きサポーターの養成が必要となっているが、受講者の減少が懸念されている状況である。住民説明会や体操の立上げ支援に合せて周知していく。	継続	要介護等認定のうち軽度者の割合	53.4%	53.5%	55.4%	①大きく達成（100%以上）	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続	継続
元気ちよっくらサポーター数			140人	221人	5年間の合計数・150人	①大きく達成（100%以上）												
こむぎっちちよっくら健康体操を実行した行政区			18行政区	25か所（48行政区）	20行政区	①大きく達成（100%以上）												
54	①住民が主役の健康づくり活動の推進	ア. 高齢者の元気づくりの応援	高齢者いきいき課	平成27年度のモデル事業を発端に、高齢化率の高い地区から声を掛けを行い、住民説明会で介護予防の重要性を説明後に体操の立上げ支援を行っている。町の現状を知っていただくと共に、住民の体操への認知度も上がり区長や住民の理解や協力も得られるようになった。行政区別では78%の実施率となっている。	目標値を大きく上回り、体操の立上げ地区が増えるに従って、体操に取り組む高齢者が増えている。また、今まで立ち上げた地区は全て継続して実施できている。体操を通じて筋力と体力を付けるだけでなく、人との交流も図ることができるため、高齢者の心と体の健康が図られ、地域で自立した生活を送ることができると考えられる。なお、体操に取り組んでいることが「要介護等認定の軽度者の割合の上昇」の一因となっていると考えられる。（アンケートによる効果検証により）	順調	「こむぎっち ちよっくら健康体操」に参加することは、介護予防だけでなく、ご近所のつながりが強くしている。今後も未実施の地区に対して住民説明会を声掛けすると共に、既に立ち上がっている地区が継続して行えるよう支援していく。	継続	要介護等認定のうち軽度者の割合	53.4%	53.5%	55.4%	①大きく達成（100%以上）	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続	継続
元気ちよっくらサポーター数			140人	221人	5年間の合計数・150人	①大きく達成（100%以上）												
こむぎっちちよっくら健康体操を実行した行政区			18行政区	25か所（48行政区）	20行政区	①大きく達成（100%以上）												
55	①住民が主役の健康づくり活動の推進	イ. 「こむぎっち体操」を活用した健康づくり	生涯学習課	町内事業所へのこむぎっち体操の実施を呼びかけるとともに、町民体育祭などの町主催事業、各小学校運動会、健康体力づくり推進協議会やスポーツ少年団など各種団体で行うスポーツ事業の際の準備体操としてこむぎっち体操を積極的に取り入れてもらう。	年度当初より各事業所への働きかけを行ったが、現状値より1か所増のみの実施となっており、H30年度目標値には届いていない。また、各スポーツ事業におけるこむぎっち体操実施については、昨年度に引き続き積極的に活用してもらっている。	やや不調	「町民の運動習慣の向上」の達成にある程度の効果はあると捉えており、引き続き町内事業所等へ実施の働きかけや各スポーツ事業時での導入依頼も行っていきたい。また、ラジオ体操やこむぎっちちよっくら体操との活用方法（併用等）も検討していく。	継続	こむぎっち体操を実施した事業所数	8か所	6か所	10か所	②ほぼ達成（70～100%未満）	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続	

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

項番	具体的施策		担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
56	ア. 各種検診事業の実施		健康保険課	がん検診は胃・肺・大腸・子宮・乳の5がん検診を個別（胃肺除く）・集団併用方式で実施。健康ガイドブックや広報等で周知する他、従来の受診勧奨に加えて、「新たなステージを活用したがん検診の総合支援事業」補助金を活用した個別の受診勧奨再勧奨を実施した。媒体には国立がん研究センターが開発した勧奨資材を使用した。国民健康保険、後期高齢者医療保険の被保険者に対し、特定健康診査や人間ドッグ受診の方への助成を行っている。「歯周疾患検診」の個別検診を実施している。	平成30年度から受診率向上を図るため、すべての検診費用の自己負担額を無料にした。また、受診勧奨を強化した結果、受診率は目標値には達していないが、向上してきている。	概ね順調	国民の2人に1人はがんにかかると推計されているほど、国民の生命と健康を守るためにも検診は重要である。今後も受診勧奨再勧奨を強化し、各種検診の受診率向上に努める。今年度はがん検診が必要な年代の住民へ積極的にPRを行い、検診忘れにはリマインド通知等を発送する。	継続	特定健診受診率	45.0%	39.3%	48%	②ほぼ達成（70～100%未満）	0.8	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	継続		継続
がん検診受診率									胃30%、大35%、肺39%、子宮46%、乳46%	胃11.0%、大腸14.6%、肺20.2%、子宮40.2%、乳36.8%	胃、大腸、肺40%、子宮、乳50%	③未達成（70%未満）							
歯周疾患健診受診率									8.2%	7.1%	8.5%	②ほぼ達成（70～100%未満）							
57	②多世代にわたる健康づくりの推進		健康保険課	健康サポーター養成講座を他の教室などの事業と同時に行った。健康長寿埼玉モデルで、日本女子体育大学と連携し、運動教室や体力測定の実施している。	健康長寿サポーター養成講座他の事業と同時に実施することで、新規の参加者が増え、健康づくりのきっかけになっている。	順調	健康寿命をのばし、健康づくりのきっかけになるよう、今後も健康づくりサポーターを育成を実施していく。	継続	健康づくり応援隊数	314人	350	364人	①大きく達成（100%以上）	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続していく。県や国保連と共同した取組を行っている。	継続		継続
58	ウ. データヘルスに基づく生活習慣病重症化予防対策の推進		健康保険課	糖尿病が重症化するリスクの高い未受診者・受診中断者を医療に結び付けるとともに、糖尿病性腎症で治療中の患者のうち、重症化するリスクの高い通院患者に対して保健指導を行い、人工透析への移行を防止し、高額な透析に伴う医療費の抑制を図ることを目的とした県との共同事業。国保連合会が事業の管理を行い医療データを基に実施している。 主な取組みとしては①未受診者、受診中断者に対して個別に受診勧奨通知を送付。②糖尿病性腎症で通院する患者へ、本人及びかかりつけ医の同意のある方を対象に保健指導を実施。	「糖尿病性腎症重症化対策事業」について国保連合会と協力して実施した受診勧奨や、保健指導により、重症化を未然に防ぐことができた。	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続していく。県や国保連と共同した取組を行っている。	継続	糖尿病性腎症重症化患者数	1人	0人	1人	①大きく達成（100%以上）	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続していく。県や国保連と共同した取組を行っている。	継続		継続

基本目標 4 時代の変化に対応し、安心してくらす地域をつくる

項番	具体的施策	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	今後の方針	KPI	H30目標値	H30実績値	R1目標値	達成度	総合的達成度	本部評価	本部の意見	取組方針	審議会の意見	取組方針
基本的方向 (3) みんなで支えあう地域の絆づくり																		
59	ア. 地域支えあいマップの充実	町民福祉課	ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯（概ね65歳以上）で日頃の見守り活動が必要な方や災害が起きた時に自力で避難することが困難な方（高齢者や障害をお持ちの方）で支援を受けるための個人情報を提供することに同意したうえで登録していただき、地域の区長や民生委員へ情報提供を行っている。	地域支えあいマップから避難行動要支援者名簿への移行を検討しているところですが、関係各課との調整が出来ていない状況です。民生委員には担当地区で登録が必要と思われる方に制度の周知のお願いをしているところですが、登録者数は減少傾向にあります。	順調	避難行動要支援者名簿を作成し、定期的に名簿の更新を行い、最新の情報を提供できる体制整備が必要であると考えています。	継続	地域支えあいマップ登録者数	675人	563人	700人	②ほぼ達成（70～100%未満）	1	概ね順調	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	継続		継続
60	①「地域力」強化への支援 イ. 自主防災組織の育成	くらし安全課	モデル地区指定のための町内9地区で防災講習会を開催した。	町内の自衛消防隊を自主防災組織として位置付けており、モデルとなり得る行政区の育成のため、行政区長に協力をいただき講習会を実施している。講習会については9地区で行った。	やや不調	結果として目標値は達成していないが、今後についても、自主防災組織の必要性、重要性を広く理解していただくため、モデル地区の指定に向けた講習会等を継続して実施する。講習を受けた地区の内4地区についてはモデル地区へ向け前向きに動いている。	継続	自主防災組織モデル地区数	3地区	0軒	4地区	③未達成（70%未満）	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	継続	自主防災組織の活動内容や自助・共助の必要性等についてより広く啓発しつつ、今後も地域の事情も考慮して、目標達成に向けて取組内容を工夫しながら事業を継続する。	継続
61	②地域でふれあう機会の充実	町民福祉課	高齢者等を中心とした居場所づくりのために、各地区においてサロンの開設を支援する社会福祉協議会が進めている事業であります。	町内17団体が開設しており、各地区において月に1～2回のサロンを開催しています。平成30年度中に新たな地区でのサロン開設はありませんでした。	順調	既存のサロンが継続的に活動できるように支援を行いながら、新たな地区でのサロン開設に向けての働きかけを行っています。	継続	地域の集まりの場団体数	17団体	17団体	20団体	①大きく達成（100%以上）	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
62	③ふるさとを知り、地域を大切にす機運の醸成	生涯学習課	町民の「ふるさと」に対する理解と郷土愛を深め、地域を大切にする機運の醸成を目的として、郷土に関する学習「歴史教室」や行政に関する学習「行政をもっと知ろう出前講座、水道事業編」を行った。歴史教室では「旧児玉飛行場」や「塙保己一と上里町」と題して2回開催。出前講座では、第1回目に「水道の仕組みについて」の講義後、浄水場の見学、第2回目にクラクラミュージアム&本庄工場の見学会を行った。	今年度の参加人数は歴史講座、出前講座を合わせ115人であり、平成30年度までに延べ270人参加となっています。平成31年度までに受講者数300人の目標に向かって順調に推移している。	順調	引き続き、郷土に係る歴史教室や行政をもっと知ろう出前講座により、ふるさと上里町をみんなで学習し、支え合い、安心して暮らせる地域づくりに向けて、事業を継続実施する。	継続	ふるさと学受講者数	225人	270	5年間の合計数・300人	①大きく達成（100%以上）	2	順調	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	継続		継続
基本的方向 (4) 地域公共交通の充実																		
63	①上里町コミュニティバスの運行	総合政策課	平成28年3月から、上里町コミュニティバス「こむぎっち号」の運行を開始した。平成30年度で運行開始3年となる。運行開始以降継続して利便性向上のために、バスイベントの開催や、時刻検索サービスの開始等、様々な改善事業を行っている。また、令和元年度にダイヤ改正を実施できるよう、運行事業者等との調整を行った。他市町村の公共交通形態についての調査も行い、より良い改善策の検討も進めている。	利便性向上のため、様々なサービスを実施した。利用者は増加したが、目標値達成のためにはより効果的な手法の模索が必要である。	やや不調	アンケート等で把握した町民のニーズに応えられるよう、バス会社と調整し、より利便性の高い公共交通になるよう改善策を実施していく。9月より利便性を上げた新ダイヤで運行を開始。これからの地域公共交通についての計画である公共交通網計画を策定する。	継続	コミュニティバス年間利用者数	25,000人	16,300人	31,000人	③未達成（70%未満）	0.5	やや不調	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、運行方法等の改善を検討しながら事業を継続する。	継続		継続